

令和8年4月22日

滋賀県内経済情勢報告

(令和8年4月判断)

1. 総論

【総括判断】 「緩やかに持ち直している」

項 目	前回 (8年1月判断)	今回 (8年4月判断)	前回 比較
総括判断	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

(注) 8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、緩やかに持ち直している。雇用情勢は、持ち直しつつある。

【主な項目の判断】

項 目	前回 (8年1月判断)	今回 (8年4月判断)	前回 比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	
設備投資	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	7年度は前年度を上回る見込みとなっている	
企業収益	7年度は減益見込みとなっている	7年度は減益見込みとなっている	

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、消費者の節約志向がみられるものの、物価上昇の影響により、前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売は、物価高により客単価が上昇しているものの、来店客数が減少しており、前年並みとなっている。

ドラッグストア販売は、医薬品などの売行きが好調であるほか、新規出店効果もあり、前年を上回っている。

ホームセンター販売は、物価高により客足が減少しているものの、除雪用品等の冬物商品に動きがみられており、前年並みとなっている。

家電大型専門店販売は、エアコンなどが好調であり、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通・小型車、軽自動車ともに前年を下回っている。

観光動向は、国内客を中心に堅調となっている。

(主なヒアリング結果)

- 節約志向により割安感のある大容量品の需要が増加するとともに、比較的安価なプライベートブランド商品の売上も堅調に推移している。(百貨店・スーパー)
- 複数購入割引などのキャンペーン対象商品の売行きが好調であるほか、単価の安い商品が特に売れていることから消費者の節約志向が感じられる。なお、郊外ではドラッグストアなどとの競合が激しく、厳しい環境が続いている。(コンビニエンスストア)
- 花粉症関連の医薬品が好調に推移するとともに、ハンドクリームや日焼け止めといった日用品の売上が増加している。(ドラッグストア)
- 除雪用品等の売行きが好調であったものの、ドラッグストア等との価格競争により来店客数が減少している。(ホームセンター)
- エアコンについては、2027年度より実施される省エネ基準の厳格化を見据え、現行の低価格モデルが基準対象外となる前の買い替え需要が高まっており、売上は好調に推移。(家電量販店)
- 車両価格の高騰により小型車の需要が高まっているものの、供給制約で受注できていない車種が複数あり、納車台数は横ばいで推移している。(自動車販売店)
- 収益確保を図るべく客室単価の引上げを進めたことから、宿泊客数は若干減少しているものの、大きな落ち込みもなく売上は堅調に推移している。(宿泊)
- 自動案内システムや配膳ロボットの導入などのDX化により、業務効率化が進むとともに回転率が上昇していることから売上が増加している。(飲食サービス)

■ 生産活動 「緩やかに持ち直している」

鉱工業指数（生産）でみると、電気・情報通信機械などが低下しているものの、化学や汎用・業務用機械などが上昇しており、生産活動は、緩やかに持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 半導体製造関連においては、中国・台湾からの受注が旺盛であるとともに、データセンター向けの需要も拡大している。(生産用機械)
- 人手不足を背景に、あらゆる業種で工場や物流センター内の省力化ニーズが上昇しており、運搬装置が堅調。(汎用機械)
- 咽喉向け一般医薬品の需要が増加していることから、大手製薬会社から受託生産の引き合いが強くなっている。(化学)
- 性能による差別化が難しい家電製品は安価な海外製の商品にシェアをとられている状況。また、節約志向により、買い替えサイクルが長期化していることも低調の要因となっている。(電気機械)
- 中東情勢の影響でナフサ価格が上昇しており、仕入先から値上要求を受けている。原材料の確保が最優先であることから値上げを受け入れるしかないが、供給不足を懸念している。(プラスチック)

■ 雇 用 情 勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率は足下で低下しているものの、引き続き1倍を超える水準で推移しているほか、法人企業景気予測調査(1～3月期)では、製造業・非製造業ともに「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 即戦力を確保するために中途採用等の募集を進めているが、給与条件等を含めたミスマッチも多く、採用活動が難航している。(金属製品)
- 理系人材が不足しているなかで中途採用に注力しているが、人材紹介会社を活用することで、当社に適した人材を紹介してもらえるため高い定着率を維持できている。(業務用機械)
- 作業工程の効率化を図るべく、AIを活用した検査設備を導入し、省人化を進めている。(窯業・土石)
- 人手不足を解消すべく、スポットワークを必要に応じて取り入れている。不足感のある業務や時間帯に限定した募集が可能のため、効率良く人手を確保できている。(宿泊)
- 現場監督者に不足感があるなかで、本来確保したい理工系の新卒が著しく不足しているため、文系学部卒の人材を含めた募集を進めている。専門分野を問わない人材を活用すべく、研修制度を拡充させており、徐々に文系卒の採用が増加している。(建設)

■ 設 備 投 資 「7年度は前年度を上回る見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」8年1～3月期

7年度の設備投資は、全産業で1.3%増(対前年度増減率、以下同じ。)の見込みとなっており、産業別では、製造業で▲14.3%減、非製造業で17.9%増の見込みとなっている。

■ 企 業 収 益 「7年度は減益見込みとなっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」8年1～3月期

7年度の経常利益は、全産業で▲13.8%(対前年度増減率、以下同じ。)の減益見込みとなっており、産業別では、製造業で▲20.0%の減益見込み、非製造業で17.5%の増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住 宅 建 設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数でみると、分譲住宅などが増加していることから、全体で前年を上回っている。

■ 公 共 事 業 「前年を下回っている」

前払金保証請負金額でみると、独立行政法人等で減少していることから、全体で前年を下回っている。

■ 企 業 倒 産 「件数、負債金額ともに前年を下回っている」

倒産件数、負債金額ともに前年を下回っている。

■ 企業の景況感 「「下降」超となっている」 「法人企業景気予測調査(全産業)」8年1～3月期

企業の景況判断 BSI でみると、現状判断は「下降」超となっている。先行きについても「下降」超の見通しとなっている。

お問合せ先：大津財務事務所 財務課 TEL077-522-6455

財 務 省